

鉄鋼・非鉄金属

1. 評価対象企業（15 社）

日本製鉄、神戸製鋼所、ジェイ エフ イー ホールディングス、丸一鋼管、大同特殊鋼、日立金属、日本軽金属ホールディングス、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWAホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	2	20
計		16	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 20 名（所属先 19 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、フェア・ディスクロージャーを除く 4 分野において、内容・配点の変更または項目の追加・削除を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 70.9 点（昨年度 69.9 点）、総合評価点の標準偏差は 6.9 点（昨年度 4.8 点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（6 社：日本製鉄、神戸製鋼所、ジェイ エフ イー ホールディングス、丸一鋼管、大同特殊鋼、日立金属）は 71.8 点（昨年度 71.0 点）となった。また、非鉄金属（9 社：日本軽金属ホールディングス、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ）は 70.3 点（昨年度 69.2 点）となり、鉄鋼、非鉄金属共に昨年度に比べ上昇した。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 67%（昨年度 71%）、説明会等が 76%（昨年度 71%）、フェア・ディスクロージャーが 80%（昨年度 78%）、コーポレート・ガバナンス関連が 69%（昨年度 65%）、自主的信息開示が 68%（昨年度 67%）となり、経営陣の IR 姿勢等を除く 4 分野は昨年度よりも改善した。
- ④ 評価項目について見ると、全 16 項目中次の 4 項目が平均得点率 80%以上となり、高い水準であった。

- (a) 「外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていますか」（平均得点率 97%〔昨年度 94%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：100%14 社・50%1 社）

- (b)「四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスを開催していますか」(平均得点率 87%〔昨年度同率〕)(得点率：100%13 社・0%2 社)
- (c)「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」(平均得点率 82%〔昨年度 72%〕)(得点率：90%2 社・85%5 社・80%5 社・75%1 社・70%2 社)
- (d)「経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか」(平均得点率 80%〔昨年度 68%〕)(得点率：80%台 9 社・70%台 5 社・60%台 1 社)

⑤ 一方、次の項目（自主的情報開示）は、平均得点率が最も低くなった。

- ・「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。また、新しい働き方に即した運営（ウェブ会議、電話会議の活用など）をしていますか」(平均得点率 64%)(得点率：40%台 1 社・50%台 5 社・60%台 3 社・70%台 5 社・80%台 1 社)

⑥ 非財務情報関連の以下の項目（自主的情報開示）は、昨年度に続き、平均得点率が改善した。

- ・「統合報告書を発行していますか。その内容は、中長期的な企業価値の向上につながる非財務情報を開示していますか」(平均得点率 74%〔昨年度 70%、一昨年度 61%〕)(得点率：80%台 8 社・70%台 4 社・50%台 2 社・40%台 1 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 日本製鉄（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 2 回目〕、総合評価点 81.8 点〔昨年度比+4.1 点〕）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉83%）、コーポレート・ガバナンス関連（77%）、自主的情報開示（82%）が第 1 位、説明会等が同得点第 2 位（82%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 3 位（87%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野の得点率が上昇した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、全 3 項目が最も高い評価となった。これらに関連して、社長が説明会に出席するなど経営トップの情報発信の機会が以前より増えた、経営トップのメッセージが明確であり経営戦略を本音で語っているなどの声が寄せられた。また、担当役員主催の ESG 説明会や長期環境ビジョンの内容などを評価する声があった。IR 部門の機能に関しては、十分な人員が配置されていること、分かりやすい情報提供を行っていること、説明会の質疑応答がウェブ掲載されていることを評価する声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会、インタビューにおいて会社側の説明が十分であること」が同得点第 1 位となった。また、「収益および財務分析に必要な情報が十分に記載されていること、情報開示の後退がないこと」および「経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」は共に同得点第 2 位となった。これらに関連して、説明会資料に改善が見られたと評価しつつ、インタビューでの情報開示は他社に劣るとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等）の開示が、公平にかつ遅滞なく行われていること」が昨年度に比べ得点率をやや下げ、同得点第 3 位となった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「中・長期の経営計画またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されたこと」が最も高く評価された。「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」も評価された。ただし、上場子会社の扱いや、社外取締役のダイバーシティに関する情報が不十分との声があった。なお、「資本政策と株主還元策に関し十分な説明がなされていること」は同得点第 4 位となった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していること。また、新しい働き方に即した運営（ウェブ会議、電話会議の活用など）をしていること」が最も高く評価された。これに関連して、DX 戦略説明会、カーボンニュートラルビジョン 2050 説明会などを評価する声が寄せられた。また、「統合報告書を発行していること、その内容が、中長期的な企業価値の向上につながる非財務情報を開示していること」が同得点第 1 位となった。なお、工場等で重大事故が発生した場合には適時の説明を要望する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 ジェイ エフ イー ホールディングス（総合評価点 79.4 点〔昨年度比+5.0 点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（78%）、自主的情報開示（81%）が第2位、説明会等が同得点第2位（82%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（87%）、コーポレート・ガバナンス関連が第4位（75%）となった。昨年度と比べると、自主的情報開示が同得点率だったほかは、全て得点率が上昇した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組み内容を投資家に的確に伝えていること」が評価された（第1位と僅差の第2位）。また、「IR 部門への経営資源の配分が充実していること（十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引き継ぎなど）」が第2位となった。これらに関連して、ESG 説明会で経営陣自らがスピーカーを務めていることや、説明会の質疑応答をウェブ掲載していること、「環境経営ビジョン 2050」の内容や説明会の開催を評価する声が寄せられた。また、従前に比べ市場への情報発信の機会が増えたとの声もあった。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会、インタビューにおいて会社側の説明が十分であること」、「経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」および「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていること」が評価された。また、「収益および財務分析に必要な情報が十分に記載されていること、情報開示の後退がないこと」が同得点第2位となった。これらに関連して、見通しの背景について可能な範囲で説明をしていると評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「説明会または電話会議のリプレイが、電話やウェブキャストで視聴等が可能であること、また、説明会の議事録が提供されていること」および「外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていること」は共に満点の評価となった。また、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等）の開示が、公平にかつ遅滞なく行われていること」は同得点第3位となったが、得点率は第1位と僅差であった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が同得点第1位となった。「中・長期の経営計画またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること」は第3位となった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「統合報告書を発行していること、その内容が、中長期的な企業価値の向上につながる非財務情報を開示していること」が評価され、第1位と僅差であった。また、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること。また、新しい働き方に即した運営（ウェブ会議、電話会議の活用など）をしていること」が第2位となった。内容が充実していたものとして、ESG 説明会、環境経営ビジョン 2050 説明会が挙げられた。

第3位 UACJ（総合評価点 78.3 点〔昨年度比+5.7 点〕、昨年度第5位）

- ① 同社は、説明会等が第1位（83%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（88%）、自主的情報開示（79%）、コーポレート・ガバナンス関連（76%）が第3位、経営陣の IR 姿勢等が第4位（74%）となった。昨年度に比べ、5分野全てで得点率が上昇した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、決算説明会や統合報告書等において、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること、また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」が評価された。これに関連して、現経営陣となって、経営トップ自らが投資家の声を聞くとする姿勢を持っているとの声が寄せられた。なお、「IR 部門への経営資源の配分が充実していること（十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時に十分な引き継ぎなど）」は同得点第4位となった。これに関連して、経営トップと IR メンバーに熱意が感じられると評価する声がある一方、IR 部門への人員配置が不十分との指摘もあった。
- ③ 説明会等においては、「収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていること、また、情報開示の後退がないこと」が最も高く評価された。また、「決算説明会、インタビューにおいて会社側の説明が十分であること」も評価され、同得点第1位となった。これに関連して、説明会資料に改善が見られたとの声があった。

四半期情報開示の2項目も高い評価となった。これらの結果、この分野において第1位となった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等）の開示が、公平にかつ遅滞なく行われていること」が、同得点第1位となった。また、「説明会または電話会議のリプレイが、電話やウェブキャストで視聴等が可能であること、また、説明会の議事録が提供されていること」および「外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていること」が、共に満点の評価となった。これらの結果、この分野において同得点第1位となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」が評価され、この分野において、第1位と僅差の第3位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書を発行していること、その内容が、中長期的な企業価値の向上につながる非財務情報を開示していること」が評価され、第1位と僅差であった。「工場見学、ESG説明会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること。また、新しい働き方に即した運営（ウェブ会議、電話会議の活用など）をしていること」は第4位だった。これらに関連して、IR Dayが充実しており、特に海外子会社の社長がオンラインで説明したことを評価する声が寄せられた。そのほか、内容が充実していたものとして、中期経営計画説明会が挙げられた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **神戸製鋼所（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 73.9 点〔昨年度比+6.4 点、一昨年度比+7.0 点〕、第 5 位〔昨年度第 12 位、一昨年度第 11 位〕）**

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第1位（88%）、**自主的情報開示**が第4位（77%）、**経営陣のIR姿勢等**が第5位（69%）、**説明会等**が第7位（77%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第8位（68%）となった。昨年度に比べ、5分野全てで得点率が改善し、総合評価点および順位の上昇につながった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営トップが企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組み内容を投資家に的確に伝えていること」が同得点第4位となった。これに関連して、カーボンニュートラルに関する積極的な取組みを開示していることを評価する声が寄せられた。また、経営トップがミーティングでアナリストの意見を聞く「双方向対話」の姿勢を評価する声もあった。
- ③ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等）の開示が、公平にかつ遅滞なく行われていること」が、同得点第1位となった。また、「説明会または電話会議のリプレイが、電話やウェブキャストで視聴等が可能であること、また、説明会の議事録が提供されていること」および「外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていること」が、共に満点の評価となった。これらの結果、この分野において同得点第1位となった。
- ④ **自主的情報開示**においては、「統合報告書を発行していること、その内容が、中長期的な企業価値の向上につながる非財務情報を開示していること」が、第1位と僅差であった。なお、内容が充実していたものとして、「KOBELCO グループの製鉄工程におけるCO2低減ソリューション」説明会、中期経営計画説明会が挙げられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以 上

2021年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（鉄鋼・非鉄金属）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目3 (配点 30点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目5 (配点 20点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目3 (配点 10点)		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3 (配点 20点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2 (配点 20点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5401 日本製鉄	81.8	25.0	1	16.4	2	8.7	3	15.3	1	16.4	1	1
2	5411 ジェイ エフ イー ホールディングス	79.4	23.3	2	16.4	2	8.7	3	14.9	4	16.1	2	3
3	5741 UACJ	78.3	22.1	4	16.6	1	8.8	1	15.1	3	15.7	3	5
4	5713 住友金属鉱山	77.0	22.2	3	15.8	5	8.7	3	15.2	2	15.1	6	4
5	5406 神戸製鋼所	73.9	20.7	5	15.4	7	8.8	1	13.6	8	15.4	4	12
6	5711 三菱マテリアル	72.5	20.0	7	15.7	6	8.4	9	13.5	9	14.9	7	11
7	5801 古河電気工業	71.7	20.3	6	14.6	14	8.4	9	13.1	13	15.3	5	8
8	5714 DOWAホールディングス	70.8	20.0	7	16.2	4	8.6	7	13.2	10	12.8	11	7
9	5802 住友電気工業	70.4	19.5	10	15.2	9	8.5	8	13.8	6	13.4	9	9
10	5706 三井金属鉱業	70.1	19.0	12	15.1	11	8.7	3	13.1	13	14.2	8	6
11	5803 フジクラ	67.0	18.2	13	15.2	9	6.6	13	13.9	5	13.1	10	15
12	5471 大同特殊鋼	66.3	19.1	11	15.3	8	7.5	11	13.2	10	11.2	13	14
13	5486 日立金属	65.2	17.2	14	14.7	12	7.5	11	13.2	10	12.6	12	9
14	5463 丸一鋼管	64.3	19.8	9	14.7	12	6.2	14	13.8	6	9.8	14	2
15	5703 日本軽金属ホールディングス	54.6	15.9	15	12.0	15	5.8	15	11.7	15	9.2	15	13
	評価対象企業評価平均点	70.88	20.15		15.28		7.99		13.78		13.68		

2021年度評価項目および配点(鉄鋼・非鉄金属)

【評価期間：2020年7月～2021年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (30点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営トップが企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。(十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引き継ぎなど)【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (20点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会、インタビューにおいて会社側の説明は十分ですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(2)説明会資料等における実績および見通しの開示	
①収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。情報開示の後退はありませんか。	6
②経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
(3)四半期情報開示	
①四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	2
②四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスを開催していますか。【開催あり：1点 開催なし：0点】	1
3. フェア・ディスクロージャー (10点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項(例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等)の開示は、公平にかつ遅滞なく行われていますか。	6
(2)説明会または電話会議のリプレイ	
・説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで視聴等が可能ですか。また、説明会の議事録が提供されていますか。	2
(3)外国人投資家への情報提供	
・外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (20点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期の経営計画またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	9
(3)資本政策、株主還元策等の開示	
・資本政策と株主還元策に関し十分な説明がされていますか。	9
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (20点)	配点
①工場見学、ESG説明会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。また、新しい働き方に即した運営(ウェブ会議、電話会議の活用など)をしていますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していた工場見学や説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	12
②統合報告書を発行していますか。その内容は、中長期的な企業価値の向上につながる非財務情報を開示していますか。	8

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部 会 長	山口 敦	SMBC 日興証券
部会長代理	五老 晴信	UBS 証券
	井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	尾崎 慎一郎	大和証券
	白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	竹元 宏和	アセットマネジメント One
	松本 裕司	野村証券

評価実施アナリスト(20名)

石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	田中 彰	三菱 UFJ 信託銀行
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	竹間 雅子	S O M P O アセットマネジメント
入沢 健	立花証券	中村 宏司	QUICK
岩崎 彰	大和アセットマネジメント	野田 健介	ニッセイ アセット マネジメント
尾崎 慎一郎	大和証券	松田 洋	みずほ証券
五老 晴信	UBS 証券	松本 裕司	野村証券
崎村 英治	野村アセットマネジメント	宮原 秀和	丸三証券
白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
鈴木 博行	みずほ証券	八木 啓行	富国生命投資顧問
竹元 宏和	アセットマネジメント One	山口 敦	SMBC 日興証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。